

3. 司会挨拶

【総合司会】

福岡県赤十字血液センター 学術情報・供給課 林田 侑志郎

皆さま、こんにちは。定刻となりましたので、ただいまより第 27 回福岡県合同輸血療法委員会を開催いたします。

本日司会を務めさせていただきます福岡県赤十字血液センター学術情報・供給課の林田と申します。どうかよろしくお願いいたします。

開会にあたりまして、福岡県合同輸血療法委員会において代表世話人を務めます聖マリア病院輸血科診療部長、大崎浩一先生より開会のごあいさつを申し上げます。

4. 開会挨拶

福岡県合同輸血療法委員会代表世話人

(聖マリア病院輸血科) 大崎 浩一

皆さま、こんにちは。福岡県合同輸血療法委員会代表世話人を務めております、聖マリア病院輸血科の大崎と申します。今日は年度末のお忙しい中、たくさんの方にお越しいただき、ありがとうございます。福岡県合同輸血療法委員会は、回を重ねて今年で 27 回目となりました。コロナ禍にあった 2021 年と 2022 年は、残念ながら集合形式での本会を開催することはできませんでしたが、昨年 3 年ぶりにここ福岡県庁で福岡県合同輸血療法委員会を開催することができました。また今年も同じく集合形式で開催することができ、大変うれしく思っております。

福岡県合同輸血療法委員会では、血液製剤の適正使用、そして安全な輸血医療の実践を目的に、毎回テーマを決めて講演を頂戴したり、輸血に関する新しい情報の提供を行ったりして参りました。今回は、「神経内科領域における免疫グロブリン療法」をテーマに、九州大学神経内科の緒方英紀先生をお招きしてご講演を賜ります。

本日はこの後午後 5 時まで約 3 時間の長い会になりますが、ここで新しい知見を得ていただき、それぞれの医療機関での輸血医療に生かしていただきたいと思います。今日のこの会が皆さまにとって実り豊かなものになることを祈念しております。

これもちまして、私の挨拶の言葉とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

5. 挨拶

【司会】

続きまして、福岡県保健医療介護部、佐野正医監よりごあいさつを申し上げます。

福岡県保健医療介護部 医監 佐野 正

保健医療介護部で医監をしております佐野と申します。

本日はご多用の中、第 27 回福岡県合同輸血療法委員会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。また皆さまにおかれましては、日頃からそれぞれの医療機関におきまして血液製剤の適正使用にご協力いただき、感謝申し上げます。

少子化の進行により、献血可能な人口が減少する一方で、近年、特に血漿分画製剤の需要が高まっていることから血液製剤の安定供給に欠かせない血液の確保のため、献血事業と適正使用の双方の推進は、依然として重要です。このため厚生労働省においては、「輸血療法の実施に関する指針」および「血液製剤の使用指針」に基づき、輸血療法の適正化および血液製剤の使用適正化を推進しているところです。県といたしましては、ボランティアの皆さんをはじめ、日本赤十字社や市町村と協力し、若年層献血者の確保を重要な課題として献血運動を推進しています。

また、県内の安全かつ適正な輸血療法の向上を図ることを目的に、全国に先駆けて「福岡県合同輸血療法委員会」を設置し、情報交換会や研修会を実施するなど、血液製剤の適正使用に向けたさまざまな取り組みを行っております。当委員会におきましては、前代表世話人である熊川所長、また現世話人である大崎先生には多大な骨折りをいただいております。誠に感謝しております。

さて、ここ 5 年間で血漿分画製剤のうち、特に免疫グロブリン製剤の需要が急激に増加しています。これに伴い、免疫グロブリン製剤の限定出荷と輸入製剤の追加輸入をするに至っており、血液製剤の適正使用がますます重要となっております。

そこで本日は神経疾患に対する免疫グロブリン療法について、先ほども大崎先生からご紹介ありました、九州大学神経内科の緒方英紀先生にご講演いただくことになっております。皆さまにはこの機会に理解を深めていただき、血液製剤の使用適正化の推進につなげていただきたいと思います。善意の献血による血液製剤がより効果的かつ効率的に患者さんの治療に活かされますよう、ご理解・ご協力をお願いしたいと存じます。

最後になりますが、当委員会が、皆さま方の今後の血液製剤の使用適正化推進の一助となりますことを期待いたしまして、挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【司会】

続きまして、福岡県赤十字血液センター所長、熊川みどり先生よりごあいさつを申し上げます。

福岡県赤十字血液センター 所長 熊川 みどり

こんにちは、熊川です。昨年 4 月に医療機関から赤十字血液センターのほうに転職いたしました。前回の合同輸血療法委員会の代表世話人を務めている頃から、医療機関の輸血部におりましたので献血血液の確保が赤十字で非常に大変だということはもちろん分かっていたつもりですが、赤十字に来てみますと本当に毎日、血液確保でドナーさんに来ていただくために、ただ待っているのではなくて、ドナーさんにメールを差し上げたり電話をしたりということで、必要な血液を確保するために連絡を差し上げて来ていただいているという努力をしております。

また、それ以外に、少子高齢化ということで今は本当に献血者確保ぎりぎりの状況でございますので、今後若い人たちにより献血に来ていただくために、高校で献血セミナーという形で献血のことをお伝えして、今後ボランティアとして献血していただくことを啓発するということで、出前授業も行っています。そしてよければそのまま、あるいは日を改めてバスを配車して献血していただいています。その後進学や就職ということでその後の人生も献血に関わってもらおうよう啓発をしていって、何とか今後も医療機関で必要とする血液を確保していくことを血液センターでは行っています。

今申し上げましたような形で、今後も血液を何とか確保してまいりたいと思いますので、福岡県合同輸血療法委員会で適正使用が非常に進んで、適切に使われている状況を私も存じていますが、今後も適正使用を続けていただいて、また各医療現場で安全な輸血をお願いしたいと思います。

以上をもちまして、開会の挨拶に代えさせていただきます。今後も合同輸血療法委員会の事務局として携わってまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。